

令和4年9月21日  
(公財)日本海事広報協会

報道関係各位

## 豊橋市の小学生を対象に三河港と海運をテーマに授業を実施 ～川崎汽船(株)の船長がゲスト講師として授業～

(公財)日本海事広報協会と川崎汽船(株)は、2022年9月9日(金)に、豊橋市立天伯小学校5年生41名を対象に川崎汽船(株)船長による三河港や海運、船員をテーマとした出前授業を実施しました。これは(公財)日本海事広報協会が海事団体と協力して展開している「小学校における副教材等による海事教育の推進」事業の一環で行われたものです。

両者は豊橋市において、例年共同で川崎汽船(株)が運航する自動車専用船と自動車整備施設見学会、船長の出前授業を実施し、海事教育の浸透をはかってきましたが、昨年度に引き続き、新型コロナウイルスの影響から見学会等が実施できず、船長による出前授業のみの実施となりました。

この日の出前授業は、川崎汽船(株)の日下部敏船長が講師として授業をおこないました。授業は2クラスの各教室で行われ、それぞれ「船の種類」や「船員の仕事」、「三河港」についてなど、児童たちは「船」による海上輸送を通して世界各国とつながる三河港の姿や、そこで働く船員の仕事を学びました。

授業を受けた児童からは、「たくさんの船の種類で1番多く存在している船が気になる」「石炭や鉄鉱石はどの国から日本へ多く運ばれているの?」「乗船中に船員が病気になったらどうするのか」などの質問が飛び交いました。

講師の日下部船長は「講話の中には地域の特産物の話も取り入れ、児童にいかに関心を持って興味を持たせ、理解を深めてもらうかを試行錯誤しました。児童たちの素朴な質問に大きな刺激を受けるとともに、今後も継続して児童に対して海運の教育をしていくことの大切さを感じました」と語ってくれました。

天伯小学校の杉浦均校長先生は、「子供たちは海事産業について、社会科の授業で習うものの、実際を知る機会がほとんどない。今回の出前授業によって新鮮な学びができました。海事産業で働く人のキャリア講座などもできたら面白い。これからの授業で、船の海上輸送は私たちの生活にとって、欠かせないものと子供たちに気づかせていきたいです」と述べました。

また、授業を受けた児童へ(一社)日本船主協会をはじめとした海事関係者から船の役割を紹介したノートや海運を紹介したパンフレット等がおくられました。

なお、同校では本授業に先立ち9月5日に事前学習として、(株)新来島豊橋造船において、見学会を行いました。

後日、同校では振り返り授業として、(公財)日本海事広報協会が制作した社会科副教材「海運と船と港の役割」を活用した授業を行い、三河港にかかわる海事産業について学びます。

当協会では、引き続き、豊橋市において、川崎汽船(株)をはじめとした海事関係者とともに、海事産業の見学会や出前授業等の海事教育を推進していきます。

【小学校における副教材等による海事教育の推進事業】 協力団体(50音順)  
(一社)日本港運協会、(公社)日本港湾協会、(一社)日本船主協会、  
(一社)日本倉庫協会、(一社)日本造船工業会、日本内航海運組合総連合会



教室で出前授業をおこなう  
日下部敏 船長

板書をして児童の質問に答える場面も



積極的に船長に質問をする児童